

株主様向け経営説明会

SEKISUI

## 積水化学グループの企業経営

～イノベーションによる社会課題解決への貢献～

2024年12月7日

積水化学工業株式会社

代表取締役社長 加藤 敬太

- ▶ **積水化学グループの経営の強みについて**
- ▶ **長期ビジョン“Vision 2030”に向けた挑戦について**
- ▶ **株主還元について**

\* 本資料の億円表記の数値に関しては、億円未満を四捨五入で表示しています。

# 会社概要

SEKISUI

**社名** 積水化学工業株式会社 (SEKISUI CHEMICAL CO.,LTD)

**設立** 1947年3月3日

**資本金** 1,000億円

**代表者** 代表取締役社長 加藤敬太

**従業員数** 26,929名 (2024年3月末日現在)

**売上高** 12,565億円 (2024年3月期連結ベース)

**営業利益** 944億円 (2024年3月期連結ベース)

**本社** 大阪本社

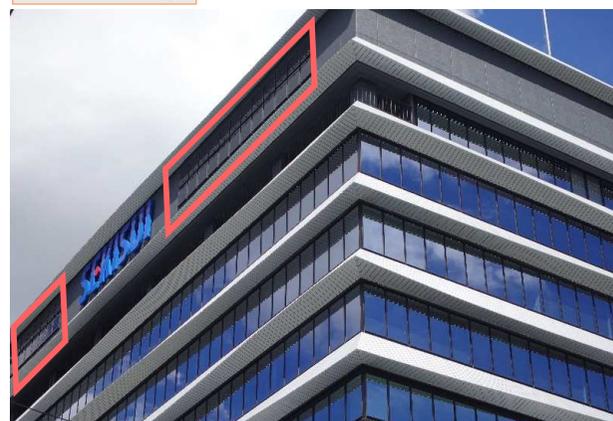
〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号

東京本社

〒105-8566 東京都港区虎ノ門2丁目10番4号



ペロブスカイト太陽電池



大阪本社 (リニューアル)



東京本社

# 積水化学グループの経営の強みについて

---

私たちが創業当時から大切にしてきたこと、

それは社是である3S精神のもと、大切なステークホルダーである皆様とともに、

**「社会課題解決に貢献する価値あるイノベーションを創出する」**こと

そして、ひとびとの暮らしと地球環境の向上に貢献し**企業として持続的成長**を実現すること



## 「社是:3S精神」

- ①Service:企業活動を通じて社会的価値を創造する
- ②Speed : 積水を千仞の谿に決するスピードをもって市場を変革する
- ③Superiority : 際立つ技術と品質で社会からの信頼を獲得する



積水化学グループの5つのステークホルダー

お客様、株主、従業員、取引先、地域社会・地球環境

# イノベーションによる社会課題解決への貢献の歴史

## 社会課題解決に資する革新的な製品やサービスを生み出し、社会を変革してきた

「街の清掃革命」としてゴミ問題を解決  
(急速な都市化による家庭ごみの増大に対応)



(ポリバール)

「工業化住宅革命」で高品質・短納期・安価な住宅を供給  
(住宅供給量不足 (高品質・短納期) に対応)



(ユニット住宅)

自動車ガラスの飛躍的な安全性向上  
(自動車普及による事故の増加に対応)

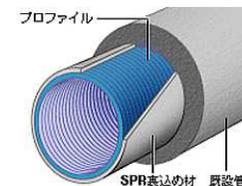


S-LEC

SUSTAINABILITY - LEADING EVERY CONNECTION

(中間膜)

管路更生によるインフラの長寿命化  
(社会インフラの急速な老朽化に対応)



(SPR工法)

①イノベーションの源泉 26の技術プラットフォーム

②イノベーションを生み出す3つの力

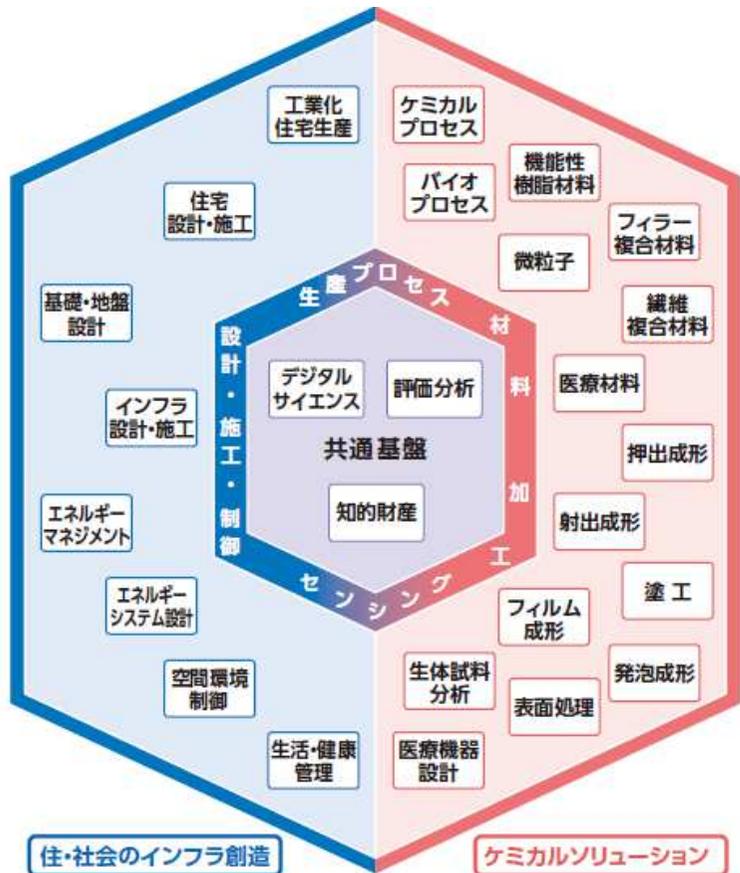
③持続的成長を実現するカンパニー経営

# 強み①:イノベーションの源泉 26の技術プラットフォーム

## コア技術を組み合わせたイノベーションで新技術や新製品を創出

### 技術プラットフォーム

技術プラットフォームを設定し、技術を強化・育成



### 技術の組み合わせによる製品展開例

複数の技術プラットフォームを組合せ、新市場・新領域を開拓

#### 半導体の高性能化・省電力化に貢献

高接着易剥離  
UVテープ  
「SELFA」



機能性  
樹脂材料

×

塗工

#### 検査の迅速化・高精度化による医療の質の向上に貢献

LRG検査薬



生体試料  
分析

×

微粒子

#### 建築途中・建築後の延焼を抑制

不燃ウレタン  
「パックスフレイム」



フィラー  
複合材料

×

インフラ  
設計・施工

など

#### できる限り電気を買わず、災害時も安心の暮らしを実現

エネルギー自給自足型  
「スマートパワーステーションFX  
GREENMODEL」



住宅  
設計・施工

×

工業化  
住宅生産

×

エネルギー  
マネジメント

など

## 強み②:イノベーションを生み出す3つの力

創業以来、「先取り」「加工」「変革」の力でイノベーションを創出

**SEKISUI**  
「加工の匠」

原料を持たない化学メーカー

原材料へのこだわり不要  
「あらゆる原料を使いこなす」



「加工」に特化

顧客の多様なニーズを実現する  
最適な「機能」「ソリューション」を提供

先取り

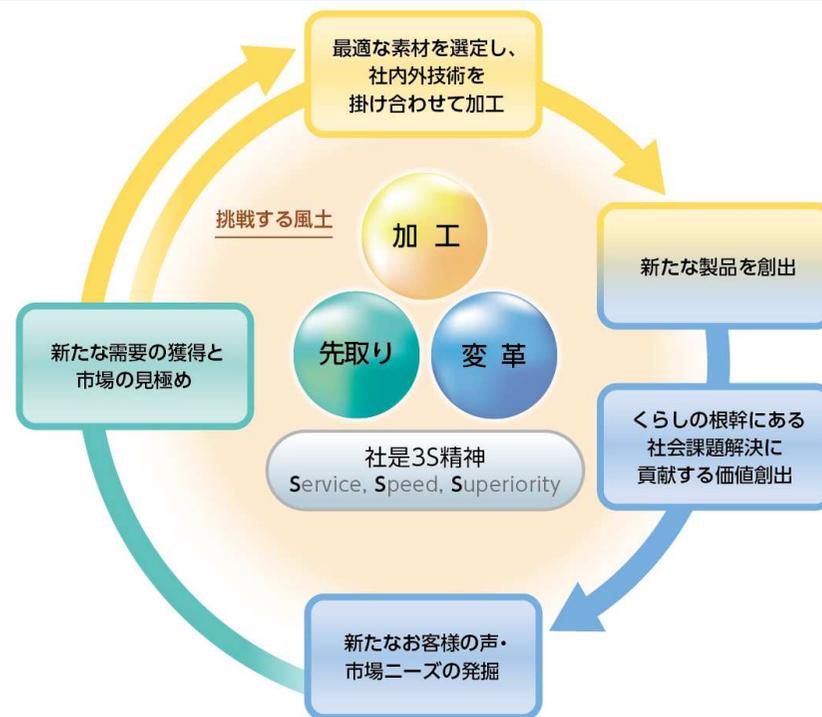
市場の変化や社会のニーズを先んじてとらえ、  
コア技術の強みが発揮できるかを見極める力

加工

社内や社外の技術を掛け合わせて  
独自のソリューションを生み出す力

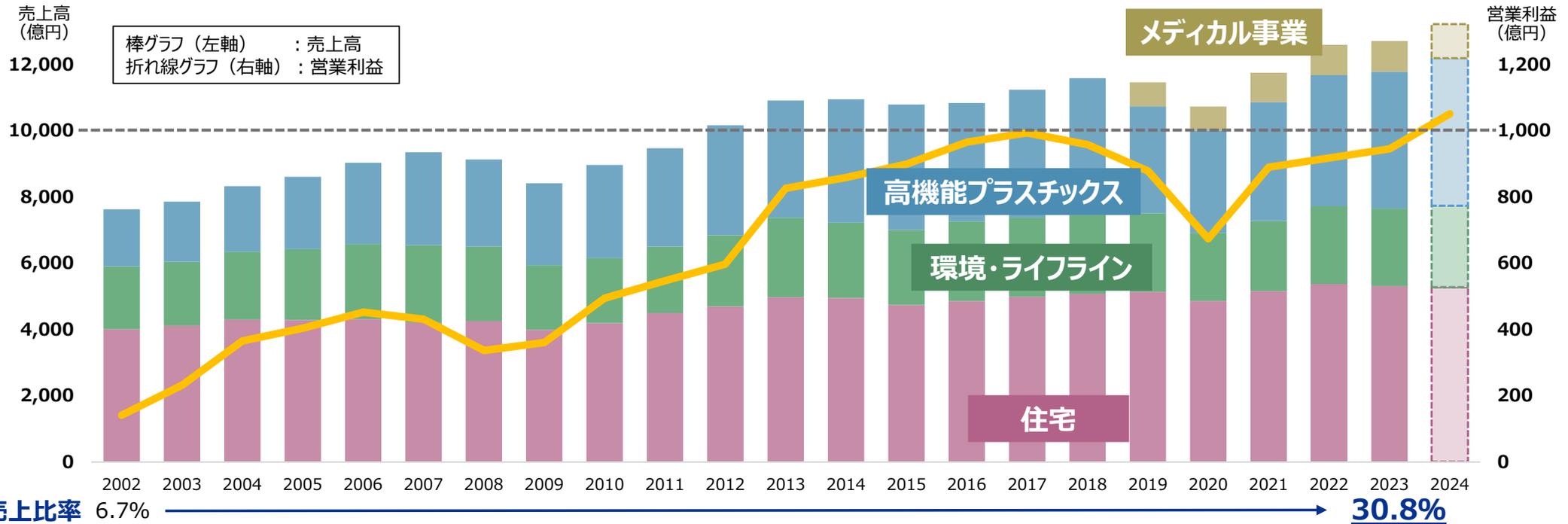
変革

生み出した製品やサービスをもとに  
新たな価値を創り出し社会を変革する力



# 強み③: 持続的成長を実現するカンパニー経営

## 収益基盤を確保しながらグループ全体で持続的成長を実現



代表製品



# 長期ビジョン“Vision 2030”に向けた挑戦について

---

# 長期ビジョン“Vision 2030”策定の背景

## 激しい変化の時代の中、解決すべき課題も数多く存在

### 社会が直面する変化の潮流

気候変動

資源・エネルギー枯渇

人口動態の変化

テクノロジーの変化

世界の分断化



### 豊かな生活へのニーズ

快適な生活

健康な生活

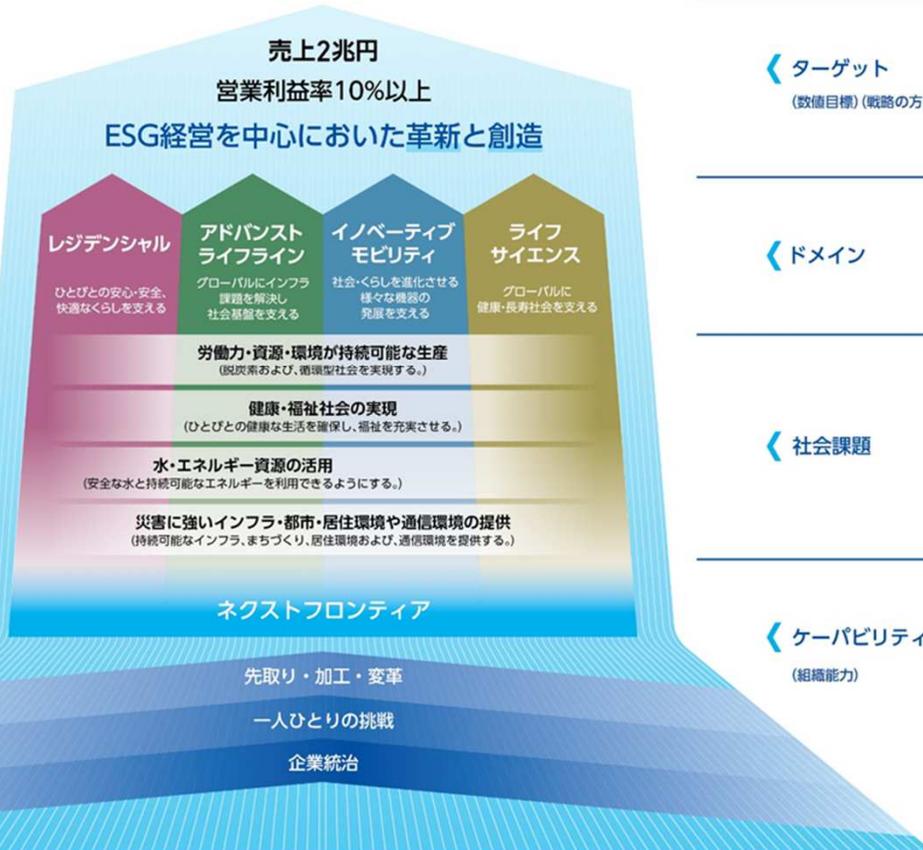
便利な生活



# 2030年に目指す姿 “Vision 2030”全体像

## Innovation for the Earth

サステナブルな社会の実現に向けて、  
LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造します。



◀ ビジョンステートメント

◀ ターゲット  
(数値目標)(戦略の方向性)

◀ ドメイン

◀ 社会課題

◀ ケーパビリティ  
(組織能力)

## 積水化学グループが考えるESG経営

社会の持続可能性向上と  
積水化学グループの利益ある成長の両立を  
目的とし、環境や社会の課題を戦略的に捉え、  
それらの解決に取り組む企業活動  
**(=仕事そのもの)**

### 3つのキーワード

I  
社会課題  
解決への  
貢献

II  
利益ある  
成長

III  
持続  
経営力  
(I、IIを実践する  
経営の持続)

# 長期ビジョン実現に向けた事業戦略の羅針盤：戦略領域マップ

強みを生かせる事業領域を定め経営資源を積極投入  
 現有事業を強化しながら、次なる社会課題解決へイノベーションを創出する



# ① 資源循環社会の実現に向けた革新的技術

## バイオリファイナリー技術

### 米国ランザテック社の微生物と積水化学のごみのガス化技術により実現

#### 社会課題

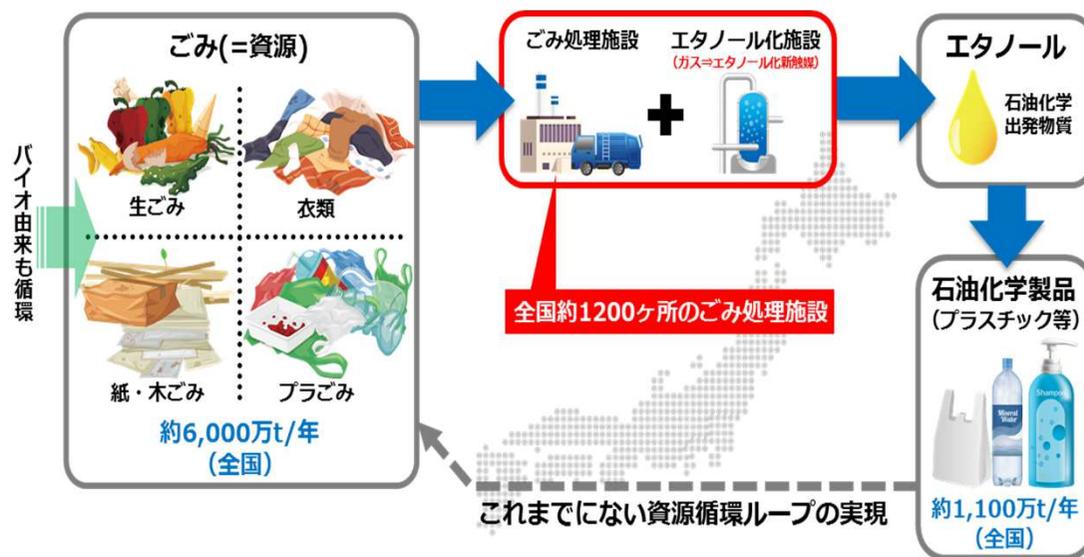
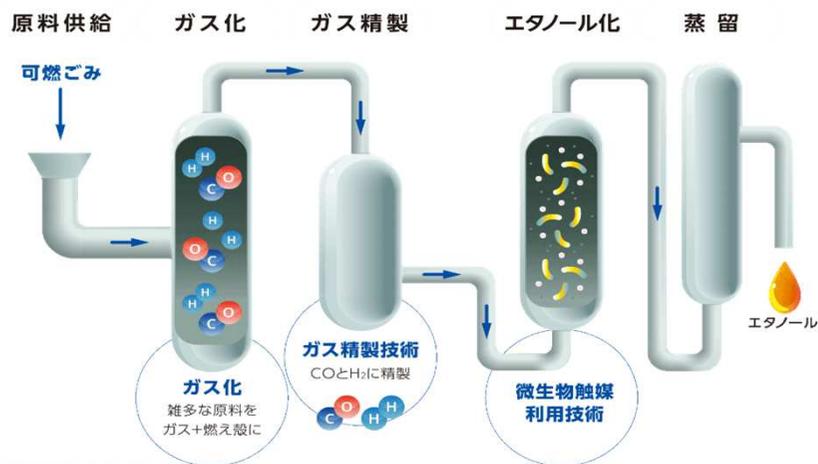
- 日本で排出される可燃性ごみは年間6千万トン  
そのほとんどは焼却・埋立処分されている
- 廃プラスチックなどは使用後の扱いが課題

#### 目指す姿

- 精製したエタノールは、新たなプラスチック製や 持続可能な航空機燃料としての活用が期待。これまでにない資源循環ループの実現を目指す

#### 技術概要

- 可燃ごみを一切分別することなくガス化し、微生物によりエタノールに変換



2028年 商用サイズ初号機 運転開始予定

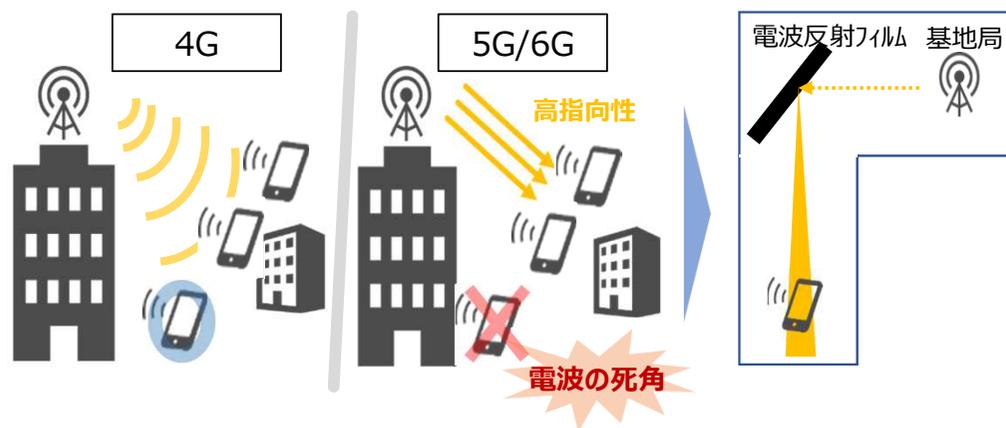
## ② 快適な生活を実現する次世代通信技術の普及へ貢献

### 透明フレキシブル電波反射フィルム

#### フィルム・光学粘着剤技術と電波制御技術を融合

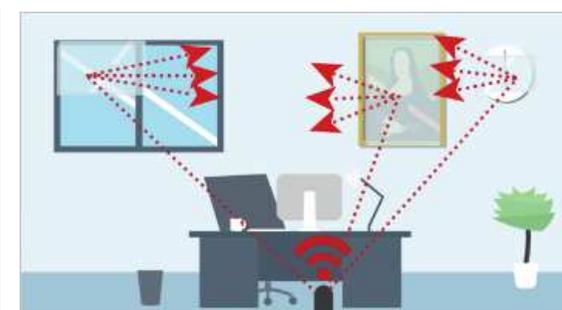
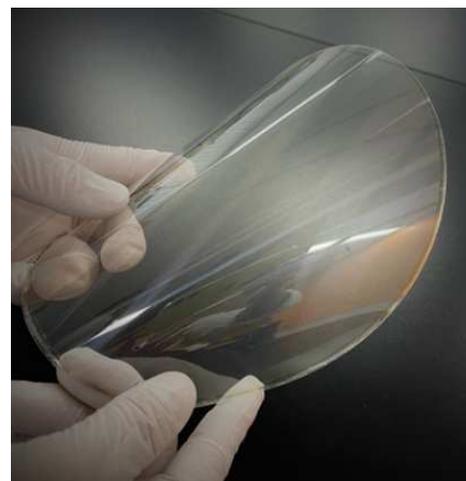
#### 社会課題

- 5G/6G電波特有の高指向性：電波の死角が発生  
→基地局増設の負担増加。普及の足枷に。



#### 技術概要

- 5G電波を反射できる透明でフレキシブルなフィルム
- 屋内外問わず、使用箇所の景観を損ねることなく貼付けでき、メンテナンス不要で電波環境を改善



- 高透明性：施工後景観維持
- 軽量/柔軟：曲面にも貼付け可
- 広い対応周波数：Sub6～ミリ波
- 低コスト：基地局増設コスト抑制

# ③先進医療の産業化に貢献する培養資材開発

## 細胞培養ソリューション

### 社会課題

- 再生医療や遺伝子治療分野では、細胞製造コストが高く、医療財政や企業収益を圧迫する原因に
- 製造コストの15-20%が培養関連資材を占め、資材のコストダウンが求められる。  
(場合によっては50%以上のケースも)

### コンセプト

化学合成足場材   細胞培養用培地   細胞輸送容器   遺伝子導入



新規培養資材によって細胞製造の効率化を図り、再生医療・遺伝子治療分野の産業化に貢献

### 製品概要：化学合成足場材



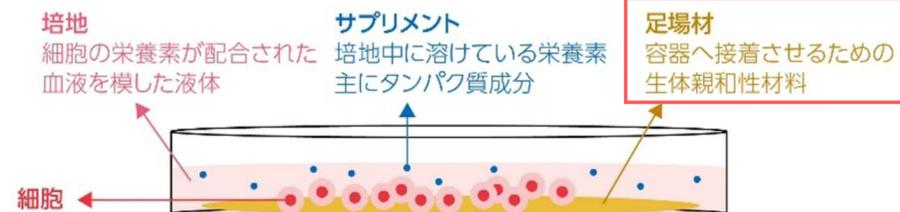
コーティング液



コーティング済みプレート (6ウェル)

2025年  
上市予定

【細胞培養資材イメージ図】



既存のタンパク足場材に比べて…

- ムラの無いコートが可能  
→幹細胞が安定して培養可能
- 様々な基材表面にコート可能  
→培養面積を増やした大量培養可能
- 長期間常温保管可能  
→産業用資材として流通・在庫可能

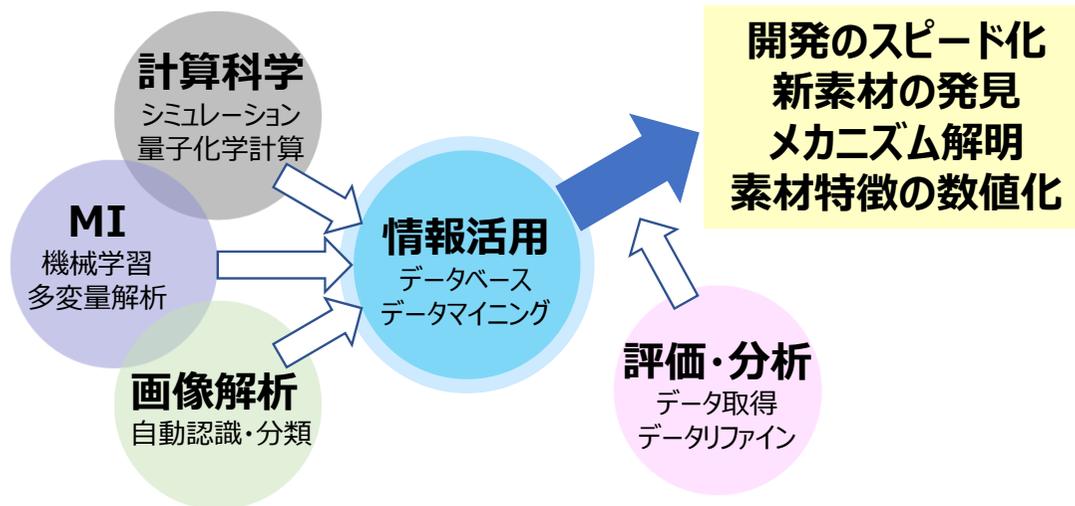
# 開発を加速する取り組み：マテリアルズ・インフォマティクス(MI)の活用 **SEKISUI**

## 強みである素材開発力と、その蓄積データを活用した開発手法であるMIを推進

### マテリアルズ・インフォマティクス (MI) とは

機械学習などの情報科学を用いて、有機、無機、金属などの様々な材料開発の効率を高める取組み。

要求性能を満たす材料の配合や製造プロセスなどを予測できる。



### 明治大学金子研究室との協業

「エレクトロニクス分野向けの  
新規高分子系材料探索」

2024年～実用化

### 日立製作所との協業

#### 先進デジタル技術を用いた協創

- ・CMOSアニーリング  
(MI精度・スピードUP)
- ・材料開発統合ナレッジベース構築  
(知識整理、補完)
- ・実験デジタルツイン  
(データ収集自動化、関連付け)

開発スピード化事例	MI適用以前	MI適用内容	効果
フィルム製品の配合検討	扱う材料やプロセスの組み合わせが30万種以上あり、配合設計に要する時間は5か月以上	配合設計に機械学習を適応し、13種類の物性を同時に予測	配合設計まで4時間 <b>900倍速</b> (5か月⇒4時間)
電子材料用テープの接着材開発	化学合成⇒物性予測⇒選別の繰り返し 新規接着成分探索時間は約1か月	配合設計に機械学習を適応し、化学構造から直接物性を予測	新規成分探索に16時間 <b>45倍速</b> (1か月⇒16時間)

## 知的資本を強化し、事業競争力を確保するためにも、知的財産活動は重要

研究開発の成果としての「知的財産」は、グループの成長・収益を支える重要な経営資源



- ・知的財産マインドの醸成
- ・従業員への知的財産教育
- ・知財情報の全社活動：IPランドスケープ  
(知財情報に市場・技術情報を組み合わせた分析)

### 強い特許獲得 → 事業競争力と収益の確保

#### ▶特許資産規模ランキング (2023年度)

順位	企業名	特許資産規模(pt)	特許件数
1	富士フイルム	62,210.0	1,275
2	LG CHEM	20,696.3	539
3	積水化学工業	20,136.4	495
4	DIC	19,861.6	377
5	日東電工	18,193.6	468
6	三菱ケミカル	17,828.1	573
7	LG ENERGY SOLUTION	17,785.4	571
8	花王	17,694.7	677
9	住友化学	17,661.4	509
10	レゾナック	17,012.4	518

出典：パテント・リザルト 「化学業界 特許資産規模ランキング2023」

#### ▶他社牽制力ランキング (2023年度)

順位	企業名	引用された特許数
1	富士フイルム	3,607
2	三菱ケミカル	1,803
3	花王	1,464
4	レゾナック	1,424
5	積水化学工業	1,096
6	旭化成	1,072
7	日東電工	1,058
8	住友化学	873
9	信越化学工業	746
10	DIC	695

出典：パテント・リザルト 「化学業界 他社牽制力ランキング2023」

化学業界で3位及び5位  
直近13年間トップ10を維持

# 長期ビジョン実現に向けた従業員の挑戦促進

「全従業員が挑戦したくなる活力ある会社」を実現し、  
「革新や創造による社会課題解決への貢献拡大」につなげる

「従業員は社会からお預かりした貴重な財産である」との考えに基づき、  
従業員一人ひとりが自分の“得意技”を磨き、“挑戦”を通じて成長していくことを支援

## 挑戦する風土醸成

### 挑戦の「場づくり」

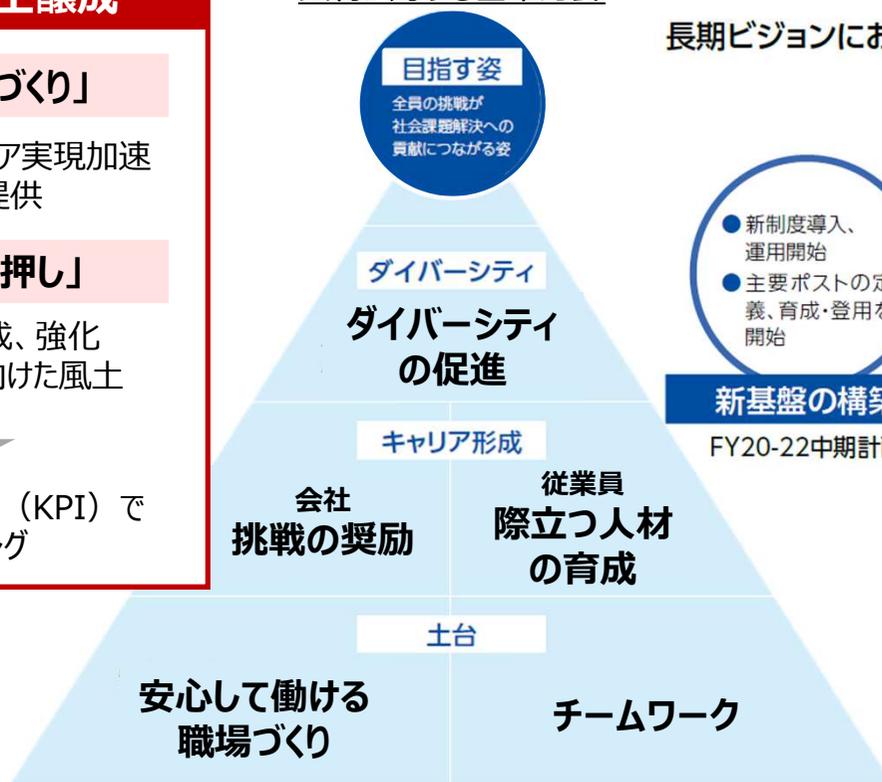
- ・手挙げによるキャリア実現加速
- ・チャレンジ機会の提供

### 挑戦の「後押し」

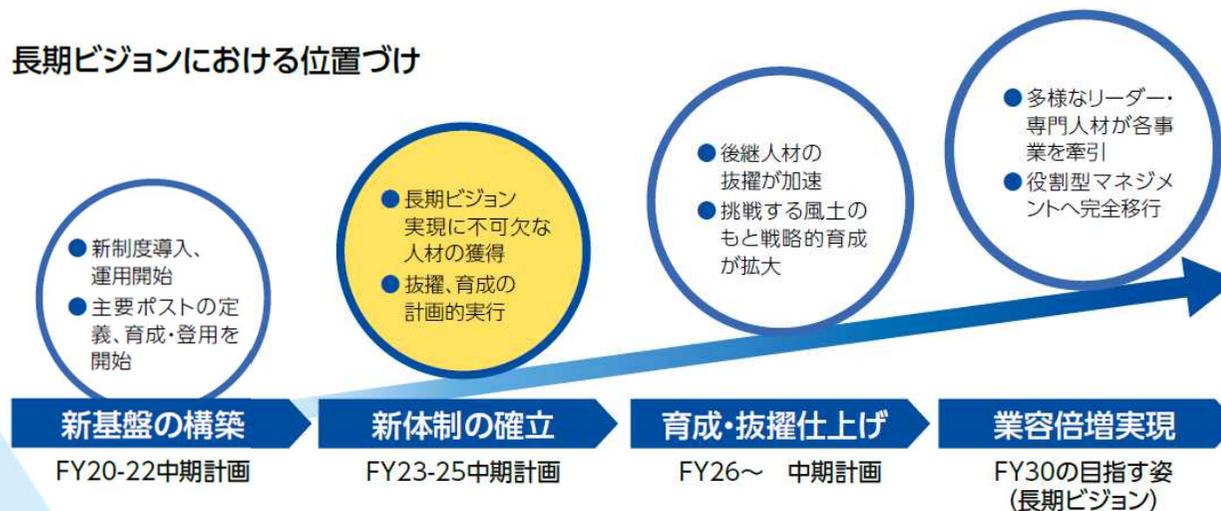
- ・挑戦風土の醸成、強化
- ・キャリア自立に向けた風土

挑戦行動発現度（KPI）で  
モニタリング

## 人材に対する基本方針



## 長期ビジョンにおける位置づけ



# 長期ビジョン実現に向けた現況

		2023年 実績	2024年 修正計画	2030年 長期ビジョン
売上高 (億円)		12,565	★ 13,087	20,000
収益性	EBITDA (億円)	1,471	★ 1,600	-
	営業利益 (億円)	944	★ 1,050	-
	営業利益率	7.5%	8.0%	10.0%
効率性	ROIC (投下資本利益率)	7.3%	8.0%	-
	ROE (自己資本利益率)	10.4%	10.2%	-
安全性	自己資本比率	59.9%	-	-
	インタレスト・カバレッジ・レシオ	90.5倍	-	-

※ROIC=税引後営業利益÷期中平均投下資本 (固定資産+運転資本)

ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷期中平均自己資本

インタレスト・カバレッジ・レシオ = (営業利益 + 受取利息・配当金) ÷ 支払利息・割引料

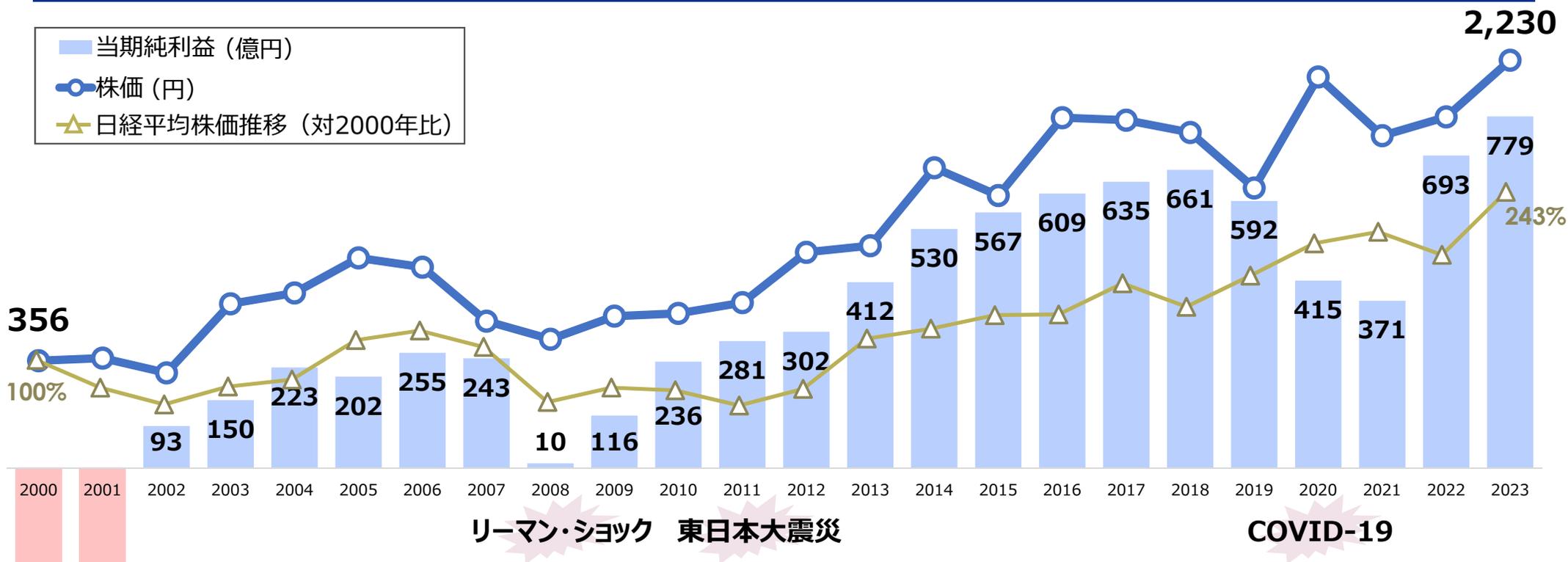
★ …過去最高

# 株主還元について

---

# 2000年以降の当期純利益・株価推移

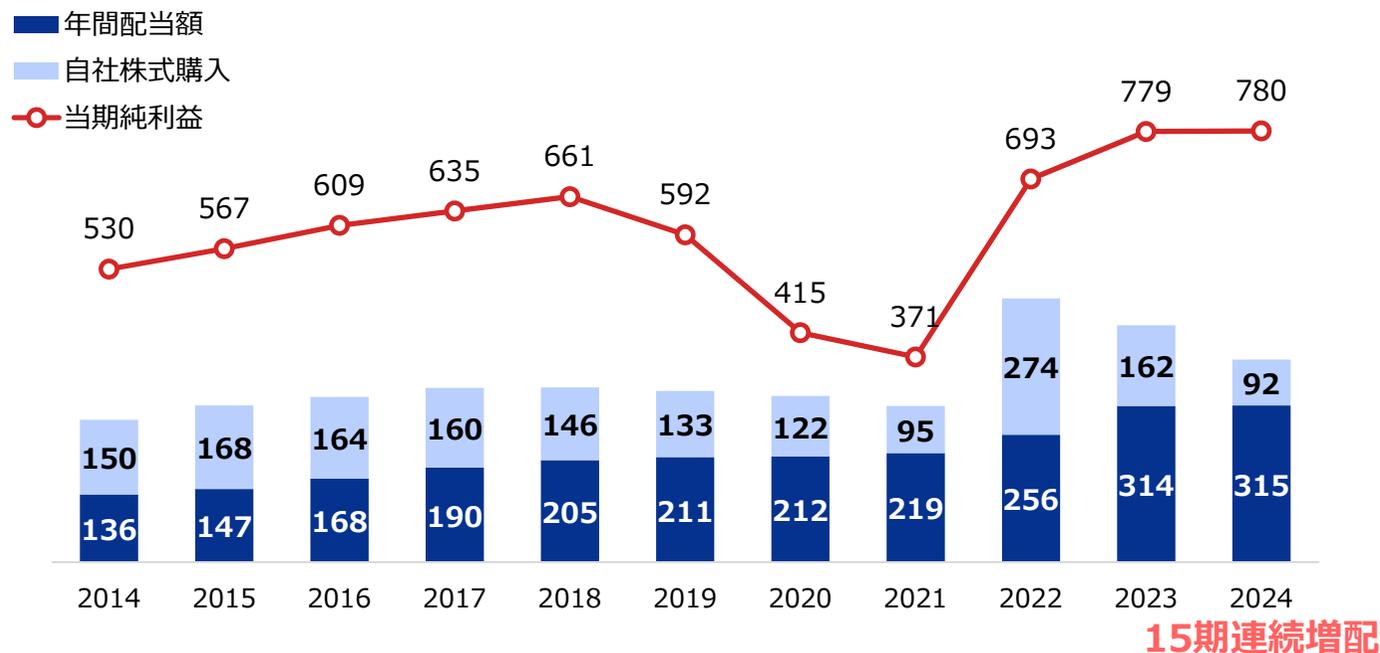
経営危機以降、経営体制の見直し・効率化を実施  
 将来を見据えながら着実な成長を実現し、企業価値を向上



※株価は年度終値ベース

## ■ 株主還元方針と実績

	前中期計画 (2020-2022年度)	中期計画 (2023-2025年度)
配当性向	35%以上	40%以上
DOE	3%以上	3%以上
総還元性向	D/Eレシオ0.5以下であれば、50%以上	D/Eレシオ0.5以下であれば、50%以上 中期計画の投資進捗、キャッシュポジション、株価を考慮し、適宜追加還元実施
自己株式消却	発行済株式総数の5%以内となるよう、新規取得見合い分を消却	発行済株式総数の5%以内となるよう、新規取得見合い分を消却



1株あたり配当	27円	30円	35円	40円	44円	46円	47円	49円	59円	74円	75円
配当性向	25.8%	26.1%	27.7%	29.9%	31.0%	35.7%	51.1%	58.9%	37.0%	40.3%	40.3%
総還元性向	54.0%	55.5%	54.5%	55.1%	53.0%	58.1%	80.4%	84.6%	76.5%	61.0%	52.1%

A photograph showing the silhouettes of four children running through a grassy field at sunset. The sun is low on the horizon, creating a warm, golden glow and long shadows. The children are running away from the camera, towards the right. A small dog is visible in the middle ground, running alongside them.

新たな社会課題が次々と生まれるこの世界で  
“未来につづく安心”を提供し続け、  
サステナブルな社会を実現する。

私たちはイノベーションを通じて、  
「人々の暮らしに対する安心が、今を生きる私たちだけでなく、次世代、  
そして未来にずっと続いていく“未来につづく安心”を提供し続け、  
サステナブルな社会と企業としての持続的な成長を実現していきます。

**皆さまのご支援は、私たちのありたい姿への“理解”と“共感”の形の1つと捉え、  
支えていただいている皆さまとの対話を大切にしながら、その“想い”に応えることを目指します。**

**SEKISUI**

# 株主様向け経営説明会



## 経営計画の進捗

2024年12月7日  
積水化学工業株式会社  
代表取締役 専務執行役員  
経営戦略部長 上脇 太

# 本日のポイント

★：過去最高値

(億円)	上期実績	前年(23上)増減	見通し(7月)差異	下期修正計画	前年(23下)増減	見通し(7月)差異	年度修正計画	前年(23年度)増減	見通し(7月)差異
売上高	★ 6,291	+178	▲66	★ 6,796	+344	▲114	★ 13,087	+522	▲180
営業利益	★ 487	+76	+39	★ 563	+30	▲9	★ 1,050	+106	+30
経常利益	481	▲34	+18	★ 544	0	▲18	1,025	▲34	0
親会社株主に 帰属する純利益	429	▲15	+34	351	+16	▲34	★ 780	+1	0
配当 (円/株)	★ 中間 37	+2	0	期末 38	▲1	0	★ 年間 75	+1	0
ROE	-	-	-	-	-	-	10.2%	▲0.2%	+0.2%

## 上期実績

国内住宅市況は低迷継続も、エレクトロニクス、建築・消費財等、グローバル市況は回復傾向。高機能品拡販、スプレッド確保、固定費抑制、住宅事業の収益性強化策の進捗等により、営業利益は見通し（7月）を上回って大幅増益。経常利益、最終利益も見通し（7月）を上回って着地

## 下期・年度修正計画

下期は全セグメントで増収増益の見通し。年度営業利益を30億円上方修正し、1,050億円へ。年度経常利益および最終利益は、為替影響を折り込み、見通し（7月）通り。ROEは、10.2%の見通し。中期計画達成が射程内に

## 株主還元

上期は自社株式の購入（400万株／89億円）および消却（400万株）を実施。配当は見通し（7月）通り、1株あたり1円増配となる年間75円（中間配当37円、期末配当38円）を計画。15期連続増配へ

## TOPICS

ペロブスカイト太陽電池の量産実証：NEDOグリーンイノベーション基金に採択。事業化を加速

# 2024年度上期実績

為替レート	2023年度 上期	2024年度 上期	2024年度 期初計画
前提	-	¥156/US\$ ¥168/€	¥150/US\$ ¥161/€
実績 *期中平均	¥141/US\$ ¥153/€	¥153/US\$ ¥166/€	-

※輸出は社内前提レート適用。為替感応度は社内前提レート  
で対USドル1円（円安）あたり営業利益+約5億円/年

# 2024年度上期 損益概要

- 増収、大幅増益。営業利益は、見通し（7月）を上回って着地
- 経常利益は、見通し（7月）を上回って着地
- 最終利益は、政策保有株式売却益も寄与し、見通し（7月）を上回って着地
- 中間配当は見通し（7月）通り1株あたり37円（2円増配）

(億円)	2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	増減	2024年度 上期見通し (7月)	差異
売上高	6,113	★ 6,291	+178	6,357	▲66
営業利益	412	★ 487	+76	448	+39
経常利益	515	481	▲34	463	+18
親会社株主に帰属する 四半期純利益	445	429	▲15	395	+34
配当 (円/株)	35	★ 37	+2	37	0

# 2024年度上期 セグメント別売上高・営業利益

■ 住宅を除く3セグメントで増収。全セグメントで見通し（7月）を上回る増益を達成。  
 全社、および3セグメントで上期最高益更新

- ・高機能P\*：エレクトロニクス関連ならびに建築・消費財の需要回復、高機能品拡販、および固定費抑制により増収増益
- ・住宅\*：売上棟数減影響も、固定費削減およびストック事業（リフォーム・不動産）拡大により増益
- ・環境LL\*：総コスト上昇影響を、売値改善と固定費抑制によってカバーし、増収増益
- ・メディカル：国内外検査需要の確実な取り込みや、米国での感染症検査キットの拡販により増収増益
- ・その他：ほぼ見通し（7月）通りに進捗。「その他」の内訳：PV\*▲7億円、LB\*▲9億円、BR\*▲11億円、R&D他▲32億円

(億円)	2023年度 上期実績		2024年度 上期実績		増減		2024年度 上期見通し(7月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	2,003	230	★ 2,211	★ 299	+208	+69	2,230	272	▲18	+27
住宅	2,648	130	2,537	146	▲112	+16	2,551	135	▲14	+11
環境LL	1,097	81	★ 1,134	★ 85	+38	+4	1,143	83	▲9	+2
メディカル	437	51	★ 479	★ 60	+42	+8	493	54	▲14	+6
その他	32	▲51	35	▲59	+3	▲8	41	▲59	▲6	0
消去又は全社	▲103	▲29	▲105	▲42	▲2	▲14	▲101	▲37	▲4	▲5
合計	6,113	412	★ 6,291	★ 487	+178	+76	6,357	448	▲66	+39

\*高機能P=高機能プラスチックカンパニー \*住宅=住宅カンパニー \*環境LL=環境・ライフラインカンパニー

\*PV=ペロブスカイト太陽電池プロジェクト \*LB=定置型リチウムイオン電池事業 \*BR=バイオリファイナリー事業

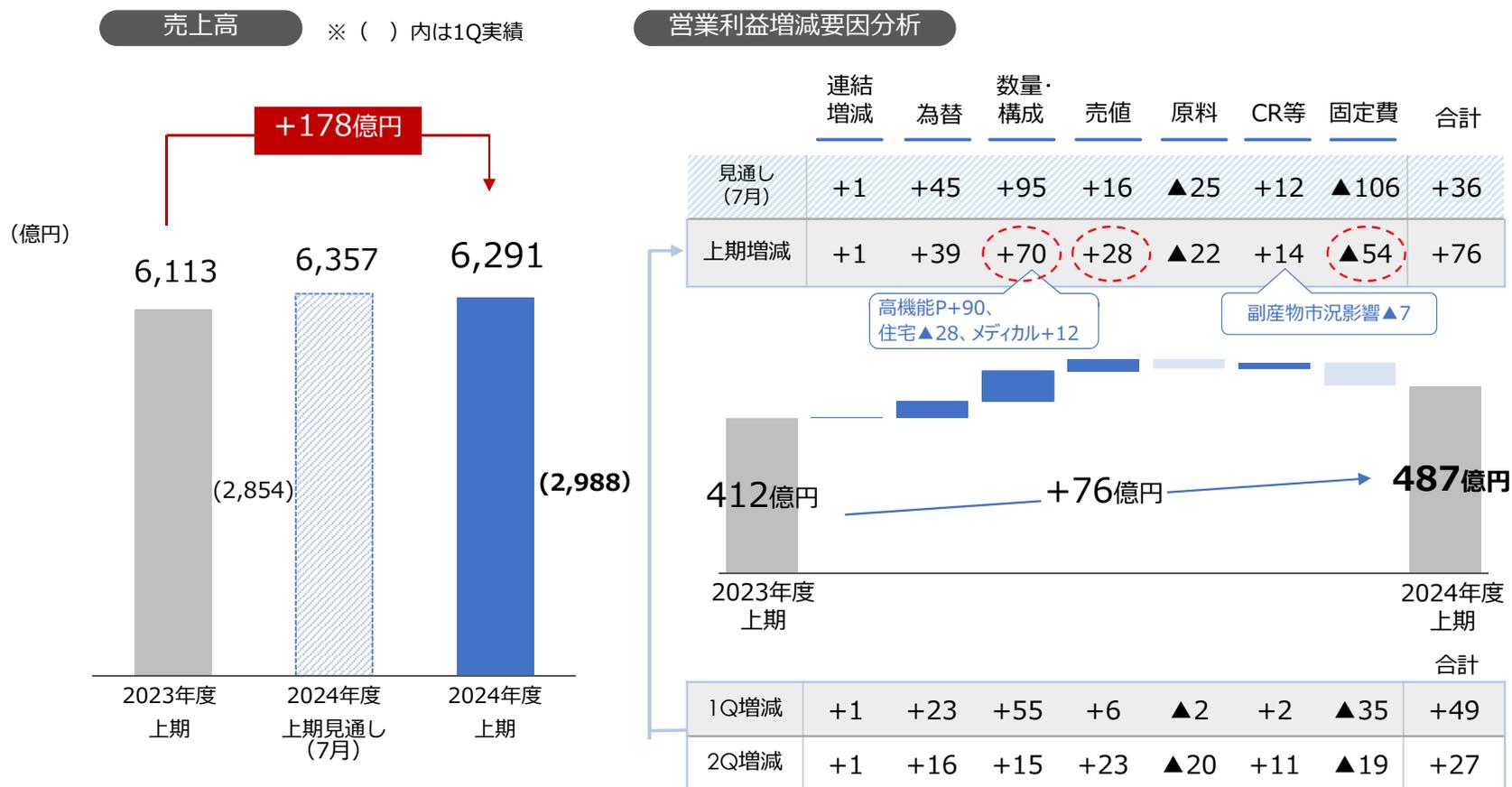
# 2024年度1Q・2Q セグメント別

■ 2Q営業利益は引き続き全社、および全セグメントで増益

(億円)	2023年度 1Q実績		2024年度 1Q実績		2023年度 2Q実績		2024年度 2Q実績	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	961	99	1,106	147	1,042	130	1,105	152
住 宅	1,210	40	1,162	49	1,438	90	1,374	97
環境LL	513	34	525	35	584	47	609	49
メディカル	205	20	223	23	232	32	255	36
その他	15	▲23	17	▲30	16	▲28	18	▲29
消去又は全社	▲50	▲16	▲46	▲22	▲53	▲13	▲59	▲20
合計	2,854	153	2,988	202	3,259	259	3,302	285

# 2024年度上期 業績分析

- 国内住宅市況は低迷継続も、グローバル市況の回復、高機能品拡販により、「数量・構成」大幅増。
- スプレッド確保を徹底し、人的資本投資等による「固定費」増をカバー。見通し（7月）を上回って着地



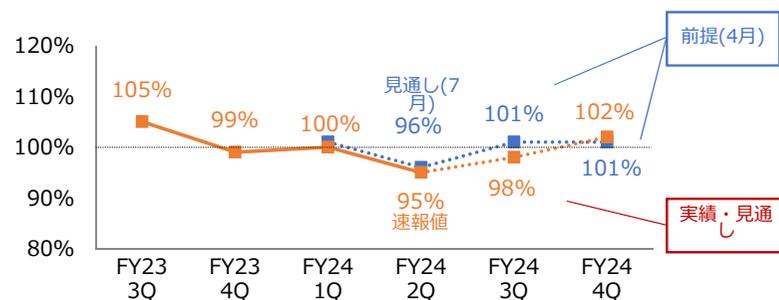
## 2024年度下期および通期修正計画

為替レート	2023年度 下期	2024年度 3Q修正計画	2024年度 4Q修正計画	2024年度 下期修正計画	2024年度 期初計画
前提	-	¥149/US\$ ¥163/€	¥140/US\$ ¥163/€	¥145/US\$ ¥163/€	¥150/US\$ ¥161/€
実績 *期中平均	¥148/US\$ ¥160/€	-	-	-	-

# 市況の前提

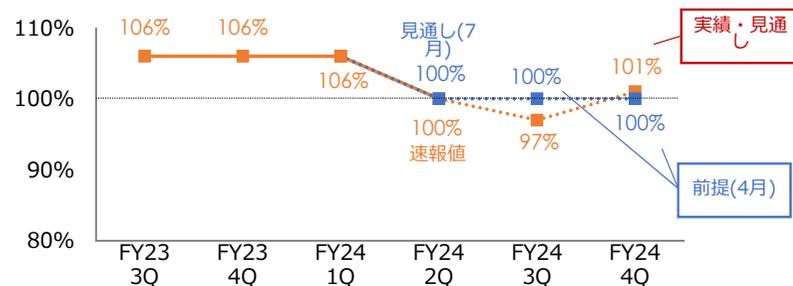
## グローバル自動車生産台数 (前年同期比)

2Qは想定(7月)をやや下回って推移。3Qは前提(4月)を下回る見通しも、4Q以降は前提(4月)通りの見込み



## スマホ出荷台数 (前年同期比)

2Qは想定(7月)通り推移。3Qは前提(4月)を下回る見通しも、4Qではほぼ前年並みへ回復する見込み



## 住宅・集客

(前年同期比) ※[ ]内: 上期は見通し(7月) 下期は計画(4月)

上期はWEB等の資料請求増により、集客全体では前年を上回って推移。下期以降も継続を見込む

	FY23 上期	FY23 下期	FY24 上期	FY24 下期
集客全体	97%	100%	105% [105%]	101% [98%]
資料請求 (WEB等)	108%	118%	119% [115%]	110% [95%]
展示場来店	90%	95%	91% [96%]	92% [107%]

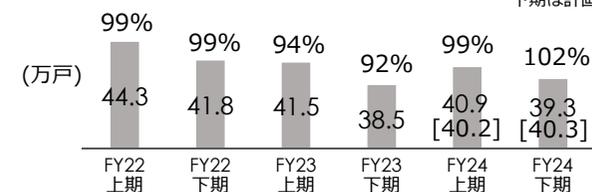
## 新設住宅着工

(前年同期比)

需要低迷継続。24年度下期は前年並みを見込む

※環境LL各製品の需要発現: 住宅着工後4~6ヶ月

※[ ]内: 上期は見通し(7月) 下期は計画(4月)



## 国産ナフサ価格前提

2Qは想定(7月)をやや下回って推移。3Q以降は前提(4月)を上回って推移する見通し



# 2024年度下期修正計画 セグメント別

■ 全社、全セグメントにおいて増収増益の見通し。市況の回復需要を確実に取り込み、引き続き高機能品拡販とともに、スプレッド確保に注力。住宅の収益性強化策の効果発現も寄与

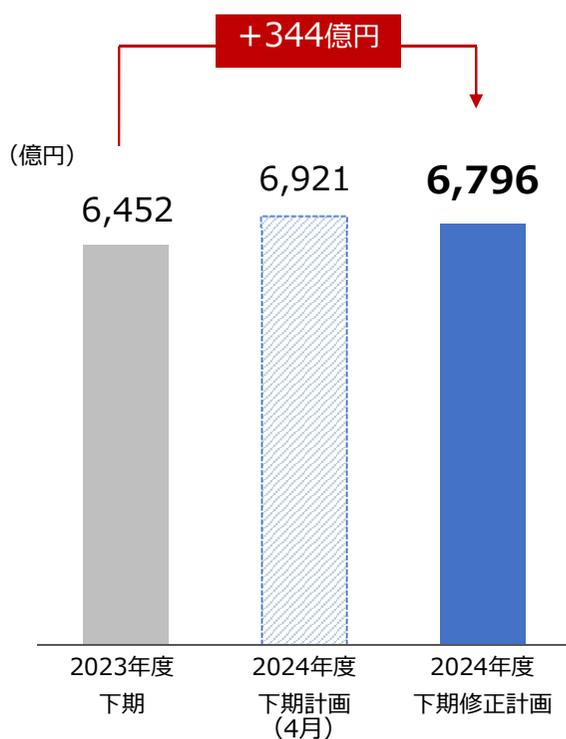
- ・高機能P：一定の市況回復を見込む。スプレッド確保にも注力し、増収増益の見通し
- ・住宅：引き続き収益性強化策を遂行。ストック事業（リフォーム・不動産）およびまちづくり事業拡大により増収増益の見通し
- ・環境LL：非住宅市況は一定の回復継続を見込む。総コスト上昇影響を売値改善によりカバーし、増収増益の見通し
- ・メディカル：国内外検査需要の取り込み、ならびに感染症検査キットおよび主要原薬の拡販等により、大幅増収増益の見通し
- ・その他：ほぼ計画（4月）通り進捗。「その他」の内訳：PV\*▲11億円、LB▲3億円、BR▲22億円、R&D他▲34億円

(億円)	2023年度 下期実績		2024年度 下期修正計画		増減		2024年度 下期計画(4月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	2,126	280	★ 2,239	★ 292	+113	+12	2,333	304	▲94	▲12
住宅	2,649	148	2,730	165	+81	+17	2,760	170	▲30	▲5
環境LL	1,251	141	★ 1,328	★ 159	+76	+18	1,335	159	▲7	0
メディカル	489	58	★ 550	★ 73	+60	+15	542	73	+8	0
その他	41	▲57	53	▲70	+13	▲13	59	▲69	▲6	▲1
消去又は全社	▲104	▲37	▲104	▲58	0	▲21	▲108	▲45	+4	▲13
合計	6,452	532	★ 6,796	★ 563	+344	+30	6,921	592	▲125	▲29

# 2024年度下期修正計画 業績分析

国内住宅市況は低迷継続も、国内非住宅およびグローバル市況は一定の回復継続を見込み、「数量・構成」大幅増。スプレッド確保に注力。計画（4月）対比「為替」差損影響を見込むも、増収増益、下期最高益更新を見込む

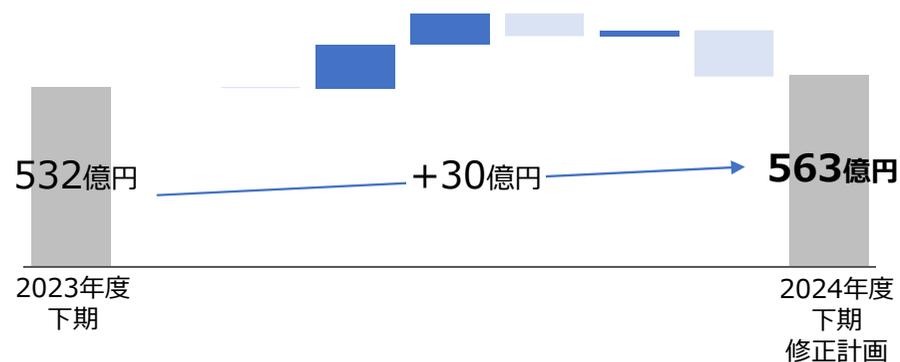
売上高



営業利益増減要因分析

	連結増減	為替	数量・構成	売値	原料	CR等	固定費	合計
計画 (4月)	0	+10	+166	+38	▲38	+10	▲127	+60
下期増減修正計画	0	▲3	+117	+83	▲61	+16	▲124	+30

高機能P+61、住宅+21、環境LL+9、メディカル+38



# 2024年度通期修正計画 セグメント別

- 全社で増収増益。引き続き高機能Pが全社をけん引、他3セグメントも回復・成長軌道へ。  
全セグメントで通期見通しを上方修正
- 全社営業利益は見通し（7月）から30億円上方修正し、1,050億円を見込む

(億円)	2023年度 実績		2024年度 修正計画		増減		2024年度 見通し(7月)		差異	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
高機能P	4,129	509	★ 4,450	★ 591	+321	+82	4,525	567	▲75	+24
住 宅	5,297	277	5,267	311	▲30	+34	5,360	300	▲93	+11
環境LL	2,348	221	★ 2,462	★ 244	+114	+23	2,454	240	+8	+4
メディカル	926	110	★ 1,029	★ 133	+103	+23	1,038	126	▲9	+7
その他	73	▲108	88	▲129	+15	▲21	101	▲129	▲13	0
消去又は全社	▲207	▲65	▲209	▲100	▲2	▲35	▲211	▲84	+2	▲16
合計	12,565	944	★ 13,087	★ 1,050	+522	+106	13,267	1,020	▲180	+30

# 2024年度通期修正計画 損益概要および株主還元

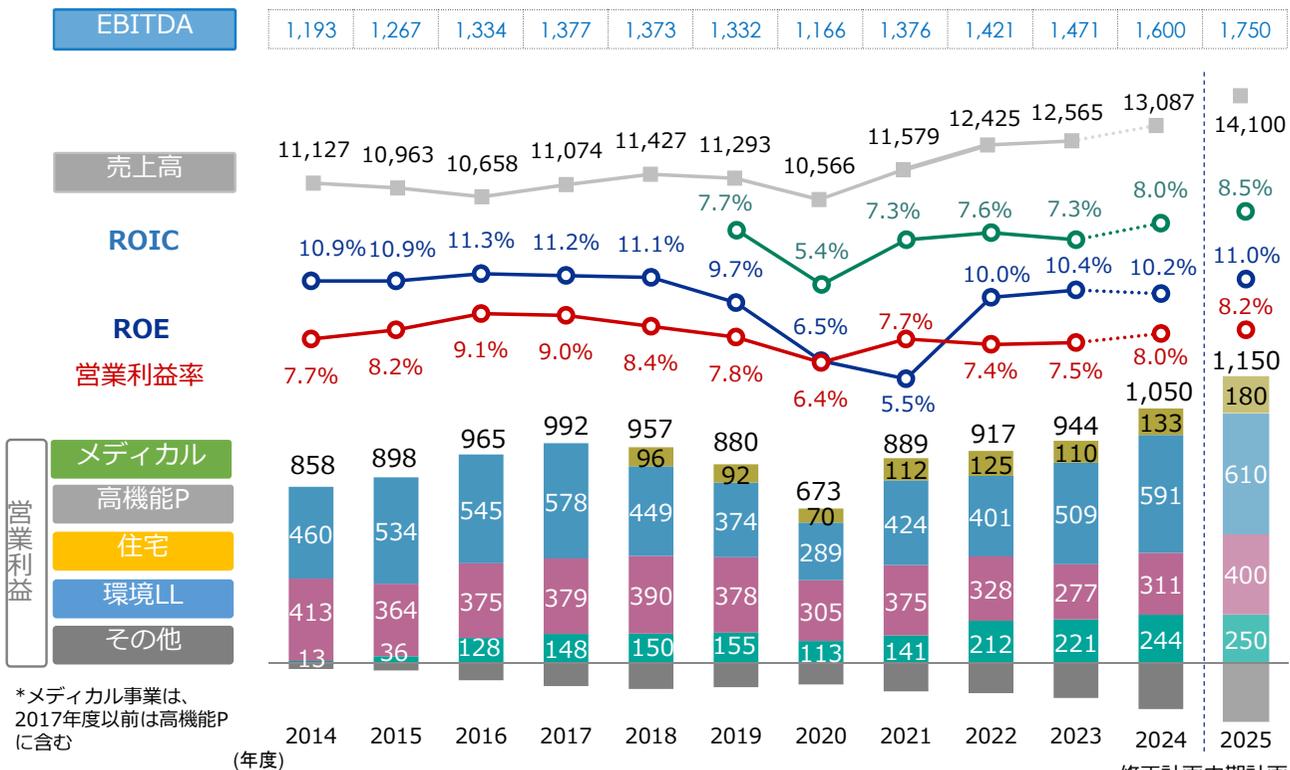
- 増収。営業利益を上方修正。最高益更新の見通し
- 経常利益および最終利益は見通し（7月）通り。最終利益は最高益更新の見通し
- 配当は見通し（7月）通り、1株あたり1円増配となる年間75円を計画。15期連続増配へ（期末配当は1株あたり38円）

(億円)	2023年度 実績	2024年度 修正計画	増減	2024年度 見通し（7月）	差異
売上高	12,565	★ 13,087	+522	13,267	▲180
営業利益	944	★ 1,050	+106	1,020	+30
経常利益	1,059	1,025	▲34	1,025	0
親会社株主に帰属する 当期純利益	779	★ 780	+1	780	0
配当 (円/株)	74	★ 75	+1	75	0

# 連結業績推移

成長へのシフトを加速。中期計画を見据えて、営業利益1,050億円達成を目指す

(億円)



\*メディカル事業は、2017年度以前は高機能Pに含む

カンパニー別ROIC (%)

	2023	2024
メディカル	8.3	9.5
高機能P	11.1	12.5
住宅	11.3	12.7
環境LL	9.7	10.6

\*2022年度以降はPF組替え後の数値を記載

外部環境	2014年4月	2018年3月	2019年10月	2020年2月~	2022年2月~
		消費増税 <5%→8%>	米中貿易 摩擦台頭	消費増税 <8%→10%>	COVID-19 感染拡大

為替レート	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025
/US\$ (期中平均)	¥110	¥120	¥108	¥111	¥111	¥109	¥106	¥112	¥135	¥145	¥149	¥135

\*2024年度は想定。  
2025年度は中期計画策定時点の前提

スライドに記載されている見込、計画、見通しなど歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて作成されております。従って、実際の業績は、様々な重要な要素の変化により大きく異なる結果になりうることを、ご承知おきください。

\* 本資料の億円表記の数値に関しては、億円未満を四捨五入で表示しています。

**SEKISUI**